

研究・調査報告書

報告書番号	担当
146	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Effectiveness of a web-based brief alcohol intervention and added value of normative feedback in reducing underage drinking: a randomized controlled trial. 未成年の飲酒量低減への WEB 配信の短期アルコール介入の有効性と規範的なフィードバックの付加価値：無作為化比較試験	
執筆者	
Spijkerman R, Roek MA, Vermulst A, Lemmers L, Huiberts A, Engels RC	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Med Internet Res. 2010 Dec 19;12(5):e65.	
キーワード	
ウェブベースの短期のアルコール介入、青年、規範的なフィードバック、中等度飲酒、アルコール使用	
要 旨	
目的： 現在、WEB 配信の短期のアルコール介入は行動変容の実行性を高めると考えられている。先行研究では WEB 配信された短期のアルコール介入は、大学生と成人の問題飲酒者のアルコール摂取を減少させたと報告されているが、未成年者を対象とした報告はない。そこで本研究は、WEB 配信の短期アルコール介入が 15～20 歳の過度飲酒者のアルコール摂取を低減させるか、また規範的なフィードバックがこの介入の有効性を増強させるかについて検討をおこなった。	
方法： 本研究の参加者 575 人は、オンラインで募集された 15～20 歳の過度飲酒者で、(1)WEB ベースの短期介入群 (標準フィードバックなし)、(2) ウェブベースの短期介入群 (標準フィードバックあり)、(3)対照群 (介入なし) に無作為に割り付けられた。アルコール使用と適量飲酒は、ベースライン時、介入 1 カ月後、3 か月後に評価した。分析は対象者全員 (575 人) と両方の事後テストを完了した者 (278 人) に分けておこなった。オリジナルサンプルの欠損値は、PASW Statistics 18 のプロシジャを用いて補完した。	
結果： 補完した値を用いたデータセットのみで、介入 1 か月後と 3 か月後にフィードバックなし介入群の週あたりの飲酒量が減少した。また、フィードバックあり介入群は介入 1 カ月後だけ、週あたりの飲酒が抑制された。追加解析によりフィードバックあり介入群の男性では介入 1 カ月後と 3 カ月後の週あたり飲酒量の低減と適量飲酒者の増加の傾向がみられたが、女性では介入効果はみられなかった。	
結論： 本研究では WEB 配信の短期のアルコール介入が 15～20 歳の過度飲酒者の飲酒量を減少させることを示したが、全体としては適量飲酒を奨励できなかった。	